

現実空間から仮想空間(メタバース)まで—大学のスタンス

大学教員は教育者と研究者の側面を併せ持ち、人材育成と研究活動を行う—と言われて久しい。一方で、卒業と同時に国家試験・各種資格試験を受験し、その合格率そのものが教育評価に直結する学部では、「教育」と「研究」のバランスが崩れ、好むと好まざるとに関わらず存続を懸け教育中心を余儀なくされているのも現状です。更に、新型コロナウイルスの感染拡大により、大学での教育・研究活動は多大な影響を受け、試行錯誤を繰り返しながら新たな環境が整えられています。大学職員の想像を超えるご苦労が垣間見えます。近年、学術誌の出版会社が、論文をネットで無料で読める「オープンアクセス(OA)」にし、収入は論文の掲載料でまかなう傾向があります。掲載料の高騰で、論文発表も、二重の負担を迫られ至難の業です。そんな中、毎年届けられる掲載料無料の論叢は、いつも遠くからふるさとを懐かしく思い忍ぶ様な感覚でページをめくっています。

論叢に掲載された原著論文や学科別研究活動は、コロナ禍において様々な制約がある中でたゆまぬ工夫と努力によって得られた研究成果として、改めてより一層高く評価されるべきでしょう。

一方、教育もコロナ禍で変貌を遂げ、「対面での授業」の大前提が崩壊しオンライン授業への移行を余儀なくされました。この様にコロナ禍を契機に「授業形態の多様化」が試みられ、「オンライン型授業」「ハイブリッド型授業」「オンデマンド型授業」等の新しい授業形態が提供されましたが、コロナ感染が減少してもその一部はメリットのある新しい授業方式として存続されています。更に、「AI(人工知能; Artificial Intelligence) 戦略2019の教育改革」をバックグラウンドに、大学教員の負担の軽減、学生の理解を助け最適化された学習のアシストを目的として教育分野に積極的なAIの導入がなされ、その活用事例も既に散見されます。コロナ禍がもたらしたオンライン会議からインターネット上の仮想空間(メタバース)を利用したメタバース会議。教員も学生もアバターで、メタバース授業やメタバース大学説明会も当然可能です。メタバースを教育分野に導入する動きが広がり、今日では「メタバース工学部」まで現実の世界で実在しています。既に高校生はオープンキャンパスで模擬授業に参加していますが、大学の“生”授業もアバターや動画配信としての観覧も可能です。「大学で何をどの様に学ぶのか」の高校生の好奇心を満たし大学のイメージも上がると同時に、どの授業を公開するかは教員・大学の意識レベルを上げる事にも通じるものと考えられ、実施している大学もあります。更に、メタバース授業として「高校在学中に大学単位の修得」も提言(第12次提言; 教育再生実行会議)され、「飛び入学」や「飛び卒業」に向けての新たな「高大接続」改革が「様々な未来の学び方」として視野に入っています。大学でも取り組んでいる「LGBT」、「SOGIE」、

「発達障害」、そして「自殺」の問題も、認識し見えているようで何処かバーチャルな世界の他人事の様に捉えられている面もあります。

何事にも新しい提案に理解が及ばないと、ついつい出来ない理由／やれない理由を探し出し実現不可能だと納得しそうです。まず問題意識を持って「どうすれば出来るのか」－激変の時代に求められているのは模索する姿勢がなければ、新しい景色は見えてこない様に思います。

大学は、常に転換期にあり、常に問題を抱え、常に解決を迫られています。良き時代にリタイヤしたと思う者の意見に耳を傾ける状況にはなく、現役の先生方の英知を結集し信じる道を果敢に攻める以外には道はない－とは、今更言えませんが。

退職して早や5年、後期高齢者になってしまった私は、厚労省の「薬物乱用防止教育の推進に関わる研究」班の一員として大麻に関わる調査研究を、少し重荷にはなっていますが、今も継続しています。これまで大学で学び培った知識は、コロナ蔓延と私の脳機能の低下で若干ブレーキが掛かりながらも、いまだに自主開催を含めた「薬物乱用防止」活動を介しての社会貢献に大いに役立っています。

また令和4年4月以来、唯々1回ジャンケンで負けただけで500世帯余りの区長になってしまいました。「仕事量の削減と仕事の優先順位」、「会議の削減と時短」、「帰属意識のなさ」、「自己防衛手段として無関心」、「危機感の欠如と現実逃避」、「認識レベルの差異」、「声の大きい一人に不快を示しながらも反論しない大多数者」、「木を見て決して森を見ようとししない頑な姿勢」、「自分の利益の側だけからの発言」－今、区長としての私が抱えているこれらの問題点は、不思議にも以前どこかで触れた言葉の様な気がします。

私の人生はまだまだ混沌として先が読めませんが、何歳になっても生きている限り勉強－との思いを強く感じる今日この頃です。

「学ぶことをやめたら 教えることをやめなければならない」
(サッカー指導者／元フランス代表選手 ロジェ・ルメール)



「あれ、マウスが動かん！」

長崎国際大学特任・名誉教授 山 本 経 之